

2022年5月29日 聖日礼拝

インターネットの礼拝映像配信は9時より。11時からは録画を視聴できます。

5月29日 聖日礼拝

前奏

招詞 イザヤ書43章1節

「恐れるな。わたしがあなたを贖ったからだ。わたしはあなたの名を呼んだ。あなたは、わたしのもの。」アーメン

会衆賛美 聖歌28

会衆賛美 大いなる方に

主の祈り

交読 詩篇23篇1～6節

礼拝祈禱

使徒信条

聖書朗読 出エジプト記

1章8節～2章10節

説教 苦しむ者を顧みる主

荻野泰弘牧師

会衆賛美 聖歌394

献金 聖歌376

頌栄 聖歌376

祝禱

報告

後奏 感謝祈禱

■聖歌28「わかくさのまきばより」

- ①わかくさの まきばより 花さく 森より
うるわしき つくりぬし われ 歌いまつらん
- ②空に照る ひかりより よぞらの月より
照りわたる 救いぬし われ たたえまつらん
- ③わが うれい 主は変えて 歌としたまいぬ
世をこぞり 主に帰(き)せよ すべての さかえを

■「大いなる方に」

大いなる方に 感謝ささげます 御子キリストの 愛のゆえに
聖なる方に 感謝ささげます 御子キリストの 愛のゆえに
今 弱い者よ 叫べ 勇士だと 勝利の主が ともにおられる
今 貧しい者よ 叫べ富んでいると 恵みの主が ともにおられる
感謝します

■主の祈り 天にましますわれらの父よ。ねがわくは 御名^{みな}をあがめさせたまえ。御国^{みくに}をきたらせたまえ。御心^{みこころ}の天になるごとく、地にもなさせたまえ。われらの日用^{にちよう}の糧^{かて}を今日もあたえたまえ。われらに罪をおかすものを われらが 赦すごとく、われらの罪をも赦したまえ。われらを こころみにあわせず 悪より救いいだしたまえ。国と力と栄えとは かぎりなく なんじのものなればなり。アーメン

■交読 詩篇 23 篇 1～6 節

- 1 主は私の羊飼いです。
私は乏しいことはありません。
- 2 主は私を緑の牧場に伏させ
いこいのみぎわに伴われます。
- 3 主は私のたましいを生き返らせ
御名のゆえに 私を義の道に導かれます。
- 4 たとえ 死の陰の谷を歩むとしても
私はわざわいを恐れません。
あなたが ともにおられますから。
あなたのむちとあなたの杖
それが私の慰めです。
- 5 私の敵をよそに あなたは私の前に食卓を整え
頭に香油を注いでくださいます。
私の杯はあふれています。
- 6 まことに 私のいのちの日の限り
いつくしみと恵みが 私を追って来るでしょう。私はいつまでも 主
の家に住みます。

■使徒信条 われは天地のつくりぬし、全能の父なる神を信ず。われはそのひとりご、われらの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤよりうまれ、ポンテオ・ピラトのもとにくるしみをうけ、十字架につけられ、死にてほうむられ、よみにくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこよりきたりて 生けるものと死にたるものとを さばきたまわん。われは聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒のまじわり、罪のゆるし、からだのよみがえり、とこしえのいのちを信ず。アーメン

■聖書朗読 出エジプト記 1章8節～2章10節

【1章】

- 8 やがて、ヨセフのことを知らない新しい王がエジプトに起こった。
- 9 彼は民に言った。「見よ。イスラエルの民はわれわれよりも多く、また強い。
- 10 さあ、彼らを賢く取り扱おう。彼らが多くなり、いざ戦いというときに敵側についてわれわれと戦い、この地から出て行くことがないように。」
- 11 そこで、彼らを重い労役で苦しめようと、彼らの上に役務の監督を任命した。また、ファラオのために倉庫の町ピトムとラメセスを建てた。
- 12 しかし、苦しめれば苦しめるほど、この民はますます増え広がったので、人々はイスラエルの子らに恐怖を抱くようになった。
- 13 それでエジプト人は、イスラエルの子らに過酷な労働を課し、
- 14 漆喰やれんが作りの激しい労働や、畑のあらゆる労働など、彼らに課す過酷なすべての労働で、彼らの生活を苦しいものにした。
- 15 また、エジプトの王は、ヘブル人の助産婦たちに命じた。一人の名はシフラ、もう一人の名はプアであった。
- 16 彼は言った。「ヘブル人の女の出産を助けるとき、産み台の上を見て、もし男の子なら、殺さなければならない。女の子なら、生かしておけ。」
- 17 しかし、助産婦たちは神を恐れ、エジプトの王が命じたとおりにはしないで、男の子を生かしておいた。
- 18 そこで、エジプトの王はその助産婦たちを呼んで言った。「なぜこのようなことをして、男の子を生かしておいたのか。」
- 19 助産婦たちはファラオに答えた。「ヘブル人の女はエジプト人の女とは違います。彼女たちは元気で、助産婦が行く前に産んでしまうのです。」
- 20 神はこの助産婦たちに良くしてくださった。そのため、この民は増えて非常に強くなった。
- 21 助産婦たちは神を恐れたので、神は彼女たちの家を栄えさせた。
- 22 ファラオは自分のすべての民に次のように命じた。「生まれた男の子はみな、ナイル川に投げ込まなければならない。女の子はみな、生かしておかななければならない。」

【2章】

- 1 さて、レビの家のある人がレビ人の娘を妻に迎えた。
- 2 彼女は身ごもって男の子を産み、その子がかわいいのを見て、三か月間その子を隠しておいた。
- 3 しかし、それ以上隠しきれなくなり、その子のためにパピルスのかごを取り、それに瀝青と樹脂を塗って、その子の中に入れ、ナイル川の岸の葦の茂みの中に置いた。

- 4 その子の姉は、その子がどうなるかと思って、離れたところに立っていた。
- 5 すると、ファラオの娘が水浴びをしようとナイルに下りて来た。侍女たちはナイルの川辺を歩いていた。彼女は葦の茂みの中にそのかごがあるのを見つけ、召使いの女を遣わして取って来させた。
- 6 それを開けて、見ると、子どもがいた。なんと、それは男の子で、泣いていた。彼女はその子をかわいそうに思い、言った。「これはヘブル人の子どもです。」
- 7 その子の姉はファラオの娘に言った。「私が行って、あなた様にヘブル人の中から乳母を一人呼んで参りましょうか。あなた様に代わって、その子に乳を飲ませるために。」
- 8 ファラオの娘が「行って来ておくれ」と言ったので、少女は行き、その子の母を呼んで来た。
- 9 ファラオの娘は母親に言った。「この子を連れて行き、私に代わって乳を飲ませてください。私が賃金を払いましょう。」それで彼女はその子を引き取って、乳を飲ませた。
- 10 その子が大きくなったとき、母はその子をファラオの娘のもとに連れて行き、その子は王女の息子になった。王女はその子をモーセと名づけた。彼女は「水の中から、私がこの子を引き出したから」と言った。

■聖歌 394 「ひとりの御子を」

- ①ひとりの御子を たまいしほどに
神はよびとを いつくしみたまう
かかるめぐみの 父をも しらで
ながく やみじに われは まよえり
- ②罪おおき ところ めぐみも まさる
主はさまよえる わがあと たずね
「かえれわが子よ かえれわが子」と
愛のみ手もて まねきたまえり
- ③くゆる心を 父はあわれみ
はしりむかえて われをば いだき
み子の血潮に 罪のけがれを
あらい きよめて すくいたまえり

■頌栄 聖歌 376 「父 御子 御霊の」

父・御子・みたまの おおみかみに とこしえかわらず
御栄えあれ 御栄えあれ アーメン